

1 教科目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 各学年の目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。

3 評価の観点及びその趣旨

- (1) 美術への関心・意欲・態度  
美術の創造活動の喜びを味わい、表現や鑑賞の能力を高めるために、主体的に学習に取り組もうとしている。
- (2) 発想や構想の能力  
感性や想像力を働かせて、対象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に独創的で豊かな発想をし、形や色彩などの効果を生かし、心豊かで創造的な表現の構想を練っている。
- (3) 創造的な技能  
感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考えたりするなどし、創造工夫して創造的に表している。
- (4) 鑑賞の能力  
感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めたりしている。

4 指導計画・評価計画表 表中の記号・・・【関】：美術への関心・意欲・態度 【発】：発想や構想の能力 【技】：創造的な技能 【鑑】：鑑賞の能力

月	指導計画	評価規準	評価方法
1 学 期	<p>◆鑑賞 古都、奈良・京都の文化財を考える。(3～4時間扱い)</p> <p>○美の基準やその多様性の歴史的な変化に接し、日本人としての文化や伝統を考え、これからの人生の中で、美に対する価値観を確立していくため、自分への問いかけの出発点とする。</p> <p>●表現 空間表現の挑戦 (4～6時間扱い)</p>	<p>【関】：自分の経験や価値意識を基に鑑賞することに関心をもとうとしている。</p> <p>【鑑】：作品を見て感じ取ったことを自分の価値意識をもって味わっている。</p> <p>【関】：自分の経験や価値意識を基に鑑賞することに関心をもとうとしている。</p>	<p>・活動の様子の観察</p> <p>・レポートの作成</p> <p>・発言内容</p> <p>・定期考査</p> <p>・活動の様子の観</p>

<p>2 学 期</p>	<p>○空間的・抽象的な表現に関心をもち、そのさまざまな探究の例を理解し、創造性豊かな抽象的な表現を工夫して楽しむ。</p> <p>●表現 新しい表現方法で挑むデザイン絵画（6～8時間扱い）</p> <p>○新しい表現方法（色調によるデザイン）と従来の絵画表現との融合により、人物画を制作する。</p>	<p>【関】：視点を組み合わせることで生まれる変化に注目しようとする</p> <p>【発】：視点や構図，遠近感のあらし方を考えながら構想を練っている。</p> <p>【技】：材料や用具の特性を生かし，表現方法を工夫している。</p> <p>【鑑】：空間のおもしろさや表現の工夫についての見方を深めている</p>	<p>察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品</li> <li>・ レポートの作成</li> <li>・ 定期考査</li> </ul> <p>・ 活動の様子の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品</li> <li>・ レポートの作成</li> <li>・ 発言内容</li> <li>・ 定期考査</li> </ul>
<p>3 学 期</p>	<p>◆鑑賞 ゲルニカとピカソを中心に近現代美術鑑賞（1～2時間扱い）</p> <p>○現代美術の出発点であるキュビズムを創作したピカソの芸術を、ゲルニカを中心に鑑賞し、西洋美術の近代絵画と現代絵画の流れについて学ぶ。</p> <p>●表現 生活用品・印鑑のデザイン（2～7時間扱い）</p> <p>○身の回りの生活に欠かすことの出来ない印鑑のデザインを印と持ち手を分けて考える。印のバランスを考えたデザインと持ち手の使いかたの良さと柱のデザインの美しさを求める。</p> <p>◆鑑賞 東西の世界遺産（1～2時間扱い）</p> <p>○古今東西の世界遺産について，東洋と西洋のそれぞれの伝統の中で発展した文化遺産について理解を深め，多様な価値観を尊重するとともに今後の自主的な美術鑑賞の基礎となる知識や見方を身に付ける。</p>	<p>【関】：意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【鑑】：作品を見て感じ取ったことを自分の価値意識をもって味わっている。</p> <p>【関】：意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【発】：バランスと使いやすさについて構想を練っている。</p> <p>【技】：使いやすい形や機能を考え，材料やつくり方を工夫して表現している。</p> <p>【鑑】：つかいやすさや美しいバランスについて理解している。</p> <p>【鑑】：作品を見て感じ取ったことを自分の価値意識をもって味わっている。</p> <p>【関】：意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【鑑】：西洋と東洋の表現の違いや特徴について理解している。</p>	<p>・ 活動の様子の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査</li> <li>・ レポートの作成</li> <li>・ 発言内容</li> </ul> <p>・ 活動の様子の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートの作成</li> <li>・ 発言内容</li> <li>・ 定期考査</li> </ul> <p>・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の様子の観察</li> <li>・ レポートの作成</li> <li>・ 発言内容</li> <li>・ 定期考査</li> </ul>

